

西尾一色ロータリークラブ月報

2026-27 年度
国際ロータリー
会長メッセージ

持続可能な
インパクトを
生み出そう

2026年 8月号

URL <http://www.katch.ne.jp/~ishikirc/> E-Mail ishikirc@katch.ne.jp

第3006回 例会 令和8年8月6日(木)

出席委員会委員長 神谷 正康
会員総数 18名
本日の出席者(免除者) 15名(3名)
本日の出席率 83.3%

会長方針

感謝で生きよ、報恩の一路

2026~2027 年度
西尾一色RC 会長 渡邊 徹

例会場/一色町商工会館

事務局/一色町商工会内 Tel:0563-72-8276 Fax:0563-73-6633

【会報委員会】 山下民義 池田宣明

会長あいさつ

会長 渡邊 徹 君



皆さん、おはようございます。
毎年恒例となっております普元寺さまをお借りしての早朝例会ですが、本日は理事会から親睦委員会に至るまで、長時間にわたり場所をお借りいたします。西脇住職におかれましては、温かいご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

本日は、大変残念なお知らせがございます。元会員の都築勇一さまが、8月4日の朝にご逝去されました。まずは謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

都築さまは平成元年に入会され、平成30年までの長きにわたり当クラブに力を尽くしてくださいました。在籍中には商工会議所の会長という地域経済を牽引する大役を務められ、地域の発展はもちろんのこと、クラブの奉仕活動にも多大なご貢献をいただきました。これまでのご功績と温かいお人柄に、改めて深く感謝申し上げます。

これも昨年、住職から教えていただきました「愛別離苦(あいべつりく)」という言葉が思い起こされ、寂しい限りです。

また、先週7月28日には熊本県にて再び最大震度7を観測する大規模な地震が発生いたしました。10年前の震源域の隣接区間が動いた内陸型地震とのこと。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を強く願うばかりです。

猛暑のなかでの避難生活や激しい余震が続くニュースに触れるたび、過去の震災や私たちが暮らすこの地域における防災への備えの重要性を、改めて痛感させられます。日常の「当たり前」に感謝しつつ、今一度身の回りの防災意識を高め、お互いに支え合えるクラブとして今後の活動を進めてまいりましょう。

そして、この後は住職による卓話「お釈迦さまの生涯」の続編をいただく予定です。大変楽しみにしております。

今週のスマイル

親睦副委員長 池田宣明 君

渡邊 徹君 先日都築勇一様が亡くなりました。とても残念です。西脇住職本日はよろしくお願い致します。

藤井知明君 おはようございます。

神谷正康君 毎年普元寺さんにはお世話になります。

牧野美恵君 おはようございます。住職のお話をお聞きしに来ました。宜しくお願いします。

田中三千雄君 おはようございます。よろしく願いします。

山下民義君 皆さん、暑さに負けませんように。

鳥居萬里君 おはようございます。よろしくお願い致します。

笠井保志君 おはようございます。

鈴木茂朗君 //

池田宣明君 //

早川比呂太君/神谷 林君/早川博也君

13件 18,000円

本日の卓話

早朝例会

普元寺 6時00分～

西脇顕真 住職

お釈迦様の生涯⑩愛別離苦(その2)

昨年は四苦八苦の中から「愛別離苦」についてお話をさせていただきました。親子であれ夫婦であれ、どんなに愛しい人とも別れていかなければならない苦しみです。

浄土真宗の開祖である親鸞聖人は「人間の八苦のなかに、さきにいふところの愛別離苦、これもつとも切なり」『口伝鈔』とおっしゃっています。愛別離苦ほど痛切なことはないというのです。同じ『口伝鈔』の中に「酒はこれ忘憂(ぼうゆう)の名あり これを勧めて、



笑うほどになぐさめて去るべし」という言葉もあります。「酒には昔から憂いを忘れるものという異名がある。悲しみが深くどうしようもならないときには、その酒をすすめて、相手に少しでも笑顔が生まれたら静かに立ち去ればよい」という意味です。

さて、今回は愛別離苦の二回目です。去年は「俱会一処」という教えについて、作家の五木寛之さんのエピソードを通してお話ししました。今回はさらに深掘します。

私事ですが、昨年、坊守(住職の妻)の弟が突然倒れて亡くなりました。診断は大動脈解離。五十六歳でした。サラリーマンでしたが、「定年退職したら勉強してお坊さんになって、普元寺を手伝うからね」と、坊守に語っていたそうです。その言葉が、いまでも胸の奥で、やさしく響いています。お葬式の日、年老いた義母は息子の顔を見つめ、声を押し殺すように泣いていました。故人の子どもたちは、あまりに突然の別れに言葉を失っていました。人は皆、愛しい人との別れに涙し、老いと病に憂い、死を恐れつつ生きています。「たくましく生きよ」と言われて、簡単に心が改まるなら、人生に涙はないでしょう。仏さまは、そのことを見抜いて、涙のままの私たちを、そのまま抱きとり、決して捨てない——その大きな慈しみの中に、私たちは生かされています。

先日、弟の一周忌法要を終えました。坊守には少しずつ笑顔の日常が戻ってきました。ふと思い出しては涙をぬぐうこともあります。その透き通った涙の中に、み仏と成って彼女に寄り添う弟の姿が見えるようです。仏教の教えの中に、還相回向という重要な教説があります。人は阿弥陀仏の願力によって、お浄土というさとりの世界に生まれたならば、即座に仏となり、普賢菩薩のような慈悲心を身に着けて、この世界に還ってくる。そして「まず有縁を度すべきなり」『歎異抄』の言葉のように、縁のあったもののところに真っ先に還ってきて寄り添い導いていくのだということです。この教えは愛別離苦を生きる私たちの心を照らす光です。

弟は仏となり、今は私たちを導いてくれています。



8 月のお祝い

★会員誕生祝 鈴木泰光 君

★創業記念祝 小出道治 君